

会派視察報告書

大崎市議会 政務活動概要報告書
平成 30 年 10 月 4 日 提出

1. 視察概要

会派名	自民党おおさき市民会議、改新クラブ
視察者名	相澤孝弘、早坂憂、鹿野良太
視察日	9月6日
視察先	聖徳学園小学校／ふるさと回帰支援センター
出席者	和田知之 校長／高橋公 理事長

2. 視察内容

視察項目	<p>知能教育・高機能教育の実践内容と現状について 地方への移住支援の現状と対策について</p>
視察内容	<p>小学校到着後、早速和田校長より日程のご説明を頂き、最初は 3 年生の知能教育現場を見学させて頂いた。授業の内容は五目並べを活用し、遊びながら学ぶという趣旨のものだった。教室ではまず五目並べのルールについての説明があり、禁じ手やトーナメントの流れについて話があった。その後、先生より指示があった生徒同士で対戦が始まったが、目を疑うほどの速さで繰り広げられるゲームに困惑するほど。そして、何手もの先を読む生徒さんや勝ち手をすぐに見つける生徒さん等、まさに大人顔負けの内容であった。中には負けたことに対して悔しがり、感情をあらわにして(相手を責めるわけではなく、ミスした自分を責めていた)泣き出す生徒さんもあり、勝ちにこだわる姿勢も見えた。</p> <p>また、ゲームが終わった生徒達は、オリジナルのプリントを使用して 1 手詰み、3 手詰みの問題を解き、先を読む訓練も行われていた他、相手に禁じ手を指させ、反則負けを誘う手についても問題として解かせるなど、かなり知略を重視した内容だった。</p> <p>次の授業までの間に、図書館を見学させて頂いたが、外語文学のコーナーがあったり、Newton が並んでいる等、一般的な学校の陳列とは一線を画している内容で、かなり多くの生徒が訪れて利用していた。</p> <p>その後、2 年生の授業を見学し、そちらはトランプを使用したポーカーを教材にしていた。まずはどんな役があるのか、その役は何ポイント獲得できるのか、ジョーカーの使い方について等を細かく説明していたのだが、「ファイブカードはないんですか」「ロイヤルストレートフラッシュはもっとポイントを高くした方がいい」等と発言があり、すでにポーカーの中身を知っている生徒が多いこと、実際のルールと学校の授業仕様になったルールとの違いを指摘したことなどに、大変驚いた。こちらの授業については、残念ながら時間の都合上実際にゲームを行っているところは見る事ができなかった。</p> <p>見学後は和田校長より質疑応答の時間を頂き、行われている教育の内容、巷で話題の「7 つの習慣」を活用したリーダーシップ教育の実績や評判、知能教育の実情、外部進学が多い理由等々様々なお話を伺うことができた。</p> <p>午後からは、ふるさと回帰支援センターに伺い、地域への移住ニーズについて、そしてセンターから自治体に何を望むかをテーマに意見交換を行わせて頂いた。理事長自らご説明を頂き、やはり地方への移住を望む方は農業にも興味がある方が多いということで、現在大崎市では農地も含めた空き家の整備を進めていることに大きな賛同を頂いた。また、移住をしたくても空き家がない、ということで諦める方が多いのが実情だという話もあり、いわゆる空き家バンク制度等の早期整備が極めて重要だという内容だった。大崎市の議員としては、ふるさと回帰支援センターに世界農業遺産認定についての PR グッズが少ないと感じ、少しでも役に立てればと手持ちの缶バッチを置いてきた。併せてお米についてや地域のまつり・イベント等についての PR も少ないと感じ、今後の課題として持ち帰ってきた。</p>
他会派との 合同実施	自民党おおさき市民会議と改新クラブの合同実施

以上